

【様式1】

平成22年度以降に競争性のある契約に移行予定のもの

(独立行政法人名:国立特別支援教育総合研究所)

契約名称及び内容	契約職等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地	契約締結日	契約の相手方の商号又は名称及び住所	随意契約によることとした業務方法書又は会計規程等の根拠条文及び理由	予定価格	契約金額	落札率	再就職の役員の数	移行困難な事由	移行予定年限	備考
第29回アジア・太平洋特別支援教育国際セミナー会場賃貸借	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 契約担当役 小田豊 神奈川県横須賀市野比5-1-1	平成21年11月17日	横浜商工会議所 神奈川県横浜市中区山下町2 産業貿易センター9F	会場の規模、機材、専門の技師、招へい者の交通の利便性、開催地のイメージ全てを考慮した結果、要件を満たす会場が他にないことから、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所会計規程第53条第1項第1号に該当するため。	非公表	1,745,076円	—	—	当該施設について、供給することが可能な者と賃貸借契約を行うものであるため。	平成22年度	

〔記載要領〕

1. 本表は、「随意契約見直し計画」の対象となっている契約を対象とすること。
2. 本表は、平成21年度に締結した契約のうち、平成22年度以降に競争性のある契約への移行予定のものについて、当該契約ごとに記載すること。
3. 本表は、「公共調達適正化について」(平成18年8月25日付財計第2017号)記3. の記載方法に準じて記載すること。
4. 「移行困難な事由」欄は、平成21年度に競争性のある契約に移行できなかった事由を記載することとし、「移行予定年限」欄は、平成22年度以降の具体的な移行予定年限(例:平成22年度)を記載すること。

【様式2】

平成22年度以降も競争性のない随意契約とならざるを得ないもの

(独立行政法人名:国立特別支援教育総合研究所)

契約名称及び内容	契約職等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地	契約締結日	契約の相手方の商号又は名称及び住所	随意契約によることとした業務方法書又は会計規程等の根拠条文及び理由	予定価格	契約金額	落札率	再就職の役員の数	随意契約によらざるを得ない事由	随意契約によらざるを得ない場合の根拠区分	備考
キャンパスイノベーションセンター賃借	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 契約担当役 小田豊 神奈川県横須賀市野比5-1-1	平成21年4月1日	国立大学法人東京工業大学 東京都目黒区大岡山2-12-1	地域的な利便性、居室の面積及び会議室等の附属施設等を考慮して選定した結果、要件を満たす場所が他にないことから、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所会計規程第53条第1項第1号に該当するため。	非公表	2,431,620円	-	-	当該施設について、供給することが可能な者と賃貸契約を行うものであるため。	5	複数年契約(平成21年4月1日から平成24年3月31日)で、契約金額は年額。
ガス料	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 契約担当役 小田豊 神奈川県横須賀市野比5-1-1	平成21年4月1日	東京ガス株式会社 東京都港区海岸1-5-20	ガスの供給について、他に供給することができる者が存在しないことから、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所会計規程第53条第1項第1号に該当するため。	-	3,919,959円	-	-	当該契約について、供給することが可能な者から供給を受けるものであるため。	8	契約金額は平成20年度実績
水道料	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 契約担当役 小田豊 神奈川県横須賀市野比5-1-1	平成21年4月1日	横須賀市水道局 神奈川県横須賀市小川町11番地	水道の供給について、他に供給することができる者が存在しないことから、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所会計規程第53条第1項第1号に該当するため。	-	5,405,915円	-	-	当該契約について、供給することが可能な者から供給を受けるものであるため。	8	契約金額は平成20年度実績
拡大教科書(新編新しい国語2上拡大版 他)196点	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 契約担当役 小田豊 神奈川県横須賀市野比5-1-1	平成22年3月26日	有限会社金文堂信濃屋書店 横須賀市西浦賀町2-1-3	拡大教科書を供給できる相手方が一者であることにより、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所会計規程第53条第1項第1号に該当するため。	非公表	12,371,934円	-	-	拡大教科書を供給できる相手方が一者であるため	10	

〔記載要領〕

1. 本表は、「随意契約見直し計画」の対象となっている契約を対象とすること。
2. 本表は、平成21年度に締結した契約のうち、平成22年度以降も競争性のない随意契約とならざるを得ないものについて、当該契約ごとに記載すること。
3. 本表は、「公共調達適正化について」(平成18年8月25日付財計第2017号)記3. の記載方法に準じて記載すること。
4. 「随意契約によらざるを得ない事由」欄は、可能な限り具体的に記載する。「随意契約によらざるを得ない場合の根拠区分」欄は、別添の「随意契約事由別 類型早見表」の類型区分(1~12)の番号を記載する。
その他以下に該当する番号を記載する。
 - ・緊急の必要により競争に付することができない場合「13」
 - ・競争に付することが不利と認められる場合「14」
 - ・秘密の保持が必要とされている場合「15」
 - ・競争に付しても入札者がいないとき、又は再度の入札をしても落札者がいない場合「16」
 - ・特例政令

随意契約事由別 類型早見表

随 意 契 約 事 由	類型区分
<p>《競争性のない随意契約によらざるを得ない場合》</p>	
<p>イ 契約の相手方が法令等の規定により明確に特定されるもの</p>	
<p>(イ)法令の規定により契約の相手方が一に定められているもの</p>	<p>1</p>
<p>(ロ)条約等の国際的取決めにより、契約の相手方が一に定められているもの</p>	<p>2</p>
<p>(ハ)閣議決定による国家的プロジェクトにおいて、当該閣議決定により、その実施者が明示されているもの</p>	<p>3</p>
<p>(ニ)地方公共団体との取決めにより、契約の相手方が一に定められているもの</p>	<p>4</p>
<p>ロ 当該場所でなければ行政事務を行うことが不可能であることから場所が限定され、供給者が一に特定される賃貸借契約(当該契約に付随する契約を含む。)</p>	<p>5</p>
<p>ハ 官報、法律案、予算書又は決算書の印刷等</p>	<p>6</p>
<p>ニ その他</p>	
<p>(イ)防衛装備品であって、かつ、日本企業が外国政府及び製造元である外国企業からライセンス生産を認められている場合における当該防衛装備品及び役務の調達等</p>	<p>7</p>
<p>(ロ)電気、ガス若しくは水又は電話に係る役務について、供給又は提供を受けるもの(提供を行うことが可能な業者が一の場合に限る。)</p>	<p>8</p>
<p>(ハ)郵便に関する料金(信書に係るものであって料金を後納するもの。)</p>	<p>9</p>
<p>(ニ)再販売価格が維持されている場合及び供給元が一の場合における出版元等からの書籍の購入</p>	<p>10</p>
<p>(ホ)美術館等における美術品及び工芸品等の購入</p>	<p>11</p>
<p>(ヘ)行政目的を達成するために不可欠な特定の情報について当該情報を提供することが可能な者から提供を受けるもの</p>	<p>12</p>